

# フィールド風

(現場)からの風

宮田守男

8月中旬、大学女子ソフトボール大会参加のため、県外から来た学生が「真夏の時期に秋の景色が観賞できる白馬は特別。なぜ全国まれな特色をアピール

しないのですか」との声。詳しく聞くとナラの木葉がしおれ、茶色や赤茶色に枯れている情景の事だった。ナラ園を持ったカシノナガキクイムシによって引き起こされた被害だと説明すると、被害防除を積極的に取り組まない地域を不思議がる。

9月の白馬村広報誌には森林経営管理法では森林管理の基本は所有者責任となっており、管理は所有者の責任になる。と周知したが、白馬村は観光庁から環境保護などの取り組みが評価され持続可能観光地の認証を国内では第一号で受けた地

域だ。ナラ枯れは、このままでは被害拡大する事は避けられないだろう。何につけ行政に要望すると「予算がない。お金がない」と対応されることが多い。行政の基本の予算はあくまで予定額だ。予算

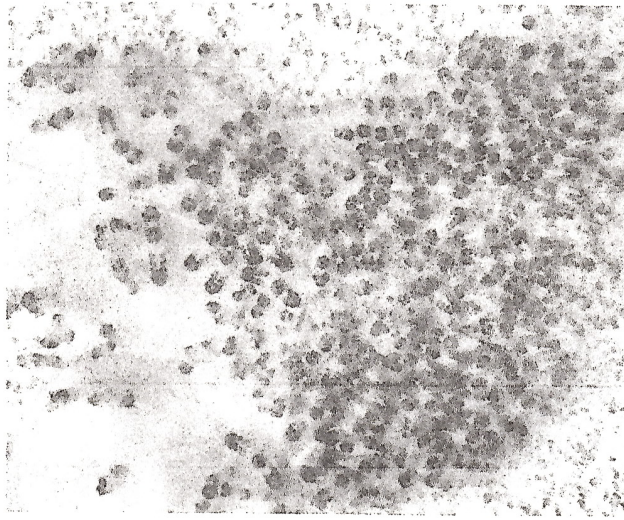
に計上してあるからと予算執行してはならず、項目ごとに行政手続きにより起案決済して初めて予算執行できるのだ。当初予算がなければ予算全体を精査して、改めて議会に緊急事態に対応できる予算編成を行い、審議を

## 景観保全は最優先課題だ

受けるべきだ。今回のナラ枯れ被害は、地域にとって大きな課題だ。新たな造景プランを策定してナラ枯れ被害木の後に植栽する花木の選定を官民協働で取り組むべきではないだろうか。まず

は多くの地域住民に地域の現状を伝え、この被害が人によって対応できない奥山まで広がってしまった時の景観を考える事から始めることが大切だ。ナプレオンの言葉に「リーダーとは希望を配る人のことだ」があ

自宅のバラの木の葉にこれまで見なかった大量の虫。温暖化の影響なのだろうか



る。地域のリーダーの皆さん、希望配達人の心構えを大切にすることを自らに言い聞かせ

ることが継続し続ける地域にとって必要不可欠だと考えるべきなのだろう。

ようやく地域の店舗に地場産のコメが並び安堵した人も多かったはずだ。しかし不透明な米価の力フラクリは消費者に不信感を抱かせたことも事実。「戦略」と「戦術」という言葉は似ているが、意味は異なる。戦略は「目的を達成するために進むべき方向」、戦術は「戦略を実現するための具体的な手段」。生産現場の価格上昇を望む事態に戦略・戦術が明らかに機能しなかった事を関係者は深く心に刻むべきなのだろう。

(信州地域社会フォーラム会員・白馬村森上)